

328) 百姓

今の若い人はとかく農業を軽蔑的に見る傾向にあるが、我輩はけっこう土をいじるのが好きである。田舎には祖父さんの代から耕していたわずかばかりの土地と山が少々あるが、私は特に山に入って草を刈ったり、枯れた木を切り倒して丸木橋を造ったり、そんな馬鹿なことを時折スポーツとして楽しんでいる。しかし山というのは一年も放っておくと草だらけになって、道もろくに分からなくなってしまふ。ある日一日汗を流して草を刈ってからよくよく見ると、それは隣の敷地だった。境界線には檜が植わっているだけだったので、目印の檜と他人の家の檜と間違えてしまったのである。それにしても今日一日の労働の対価と、ここまで来るガソリン代と高速代がまったく無駄に費やされてしまったのであります。まっ、しめて3万円ぐらい損したことになるのだろうか。チッキショウ！隣んちに請求すんべか。